



「どこにでもいる偉人」

みなさんこんにちは。もうすっかり秋です。先月号はお休みしました。仕事が忙しく、どう頑張っても書けませんでした。

た。というより、24時間フルで動いても無理だったでしょう。かなり忙しかったということで、気を取り直して再開です。

最近、村山市にある「最上徳内記念館」というところに行ってきました。前から知っていたのですが、なかなか行く機会がありませんでした。感想はさておき(なぜ?)、地域に偉人というのは、いるものだと思います。「あの人がすごい、この人がすごい」と生きているうちは、いろいろな話を耳にしますが、結局、人ひとりの人生で、何人の偉人と出会えるのでしょうか？

僕は偉い人より、すごい人が好きなのですが、そのすごいと思えるのも、結局、僕自身が勝手に判断したにすぎません。ジミヘンって、すごいな—という僕と、誰それ?という人。人の価値観はそれぞれだから、そんなもんかもしれません。だから、地域の偉人と言い切ってしまうと、その地域の人が認めた人という認識が強くあり、ヘンなカテゴライズが発生する気がします。

ここで、山形に来てからの心境の変化をお伝えしておきましょう(笑)この新聞を過去にさかのぼって読んでもらえるとわかりますが、かなりゆるくなっています(笑)昔は、論理的なことばかり書いていたのが最近はそのようではないですかね?何ですかね—、最近。色々考えてはいるんですが、自分の中に矛盾が生じている気がするんですね。だから、自己嫌悪にならないように言わないのかな。

協力隊のときは、仕事上、語る事が多かったけど、今の立場で、地域とかまちづくりを語ってもな—という気持ちです。協力隊の全国ミーティングや研修に行くときよくわかりますが、懇親会でもアツク語る人もいれば、うちの村、コンビニないんだよ—という人、1年で帰るといふ人、色々います。アツク語る人の何が嫌かといえば、協力隊という立場にいる以上、何かすべきだ!オーラを強要してくるところです。簡単に言うと、あつかましく、うさんくさいのです。こう言うと、100%こう言われます「じゃあ、協力隊やらないほうがいい」。。。これはほぼ実体験にもとづく証言ですが、そういう輩が必ずいます。そうではなく友達になれる人も必ずいます(全国規模なら)

この協力隊なんだから何か貢献すべき論は、現在でもあると思いますが、これにのっかって空振りして、散らかすだけ散らかして、3年終わってサヨナラが、一番大変です。後の人が困ります。ね—ね—協力隊って、〇〇だよ—とか、田舎は噂の広まるスピードがNCVの光回線よりも高速なので、首絞まります(笑)

もし、現役の協力隊のときに、身の丈にあった行動をとれるようだったらと思うこともありますが、川西にいたときに、何か重大なミスをやらかしたかな?といったら、何もしてないですが、一番の収穫は、色々な人と知り合って、まちづくりという共通のキーワードを使って、人生勉強できたことでしょう。僕の2ヵ月後に着任したH氏(笑)は1年で川西を去りましたが、彼は仕事として向いていないという、仕事ベースでモノを考えるから、続かなかったかもしれませんが、正直でした。けれども、俺、まちおこし、任せてください!!と言い切れてしまう人より、よっぽどいいです。もっといえば、自分に出来ない事を、人にさせないからいいです。

こういう、人としてフツ—なこと?要は、学校生活でこんなことしたら嫌われるとか、仲間はずれにされるとか、人が嫌がることを、大人になってからもしていたら進歩がないし、根拠もない事を、強制されるのは苦痛でしかないのです。決して誰が悪いとかではありません、自分の人生なんだから、自分で考えて好きなようにしたいし、好きなようにするためには努力が必要だし、自分にはそれが出来ないと思ったら、そうではない人生を歩むしかないのかと。そうすると、どこにでも偉人っているものだな—と歴史を振り返ると納得します。ということで、現役の協力隊の皆さん、人に迷惑をかけなければ、好きなことやったほうがいいです。何もなければボーっと過ごしましょう。それでも人生勉強になりますので。